

会派代表質問

自 民

道の駅・救急医療体制・出産子育て・家庭の支援・社会資本整備について

中野 修 議員



道の駅について

問 地元区長をはじめ各種団体との「意見交換会」および一般市民を対象とした「まちづくり座談会」で、どのような意見や要望があったのか、お聞かせください。

答 白里地域の活性化に向けた道の駅等の整備について、白里・福岡地区区長会、商工会、商工会青年部、社会福祉協議会白里支部、観光協会、水産加工協同組合、海岸地域の振興を進める会、農業委員会、朝市組合、遊楽市組合、農業研究会の11団体を対象とした意見交換会を、その後市民の方々の対象としたまちづくり座談会を開催し、ご意見をいただいたところでございます。

意見交換会や座談会では、まず市の方からは人口減少や少子高齢化が進む白里地域に1年を通して訪れることができる交流拠点施設を整備し、新たな賑わいの創設や雇用の確保、さらには観光振興などを図ることにより地域の活性化につなげていきたいという考えをお伝えしました。参加者の皆様からは、道の駅の整備を求めるご意見を多くいただいたほか、施設の規模や内容については、中途半端なものを造るのではなく、ほかにも、ここでしか体験できないもの、ここでしか購入できないものなど、特別感を出して、市内外からたくさんの方々が訪れる施設にしてほしいとの要望が多く挙げられました。また、施設に必要な具体的な機能としては、農産物直売所、温浴施設、海を生かした施設、ドッグラン、日常の買い物ができる施設、レストラン、子ども向けの遊戯施設、加工場、クラフトビル工場、アクティビティ施設、防災施設など様々

なご意見を出されましたが、そのほかにも各種イベントの提案や建設場所、整備後の運営等に関する意見があり、今後も多くの市民の声に耳を傾けながら検討を進めてもらいたいとの要望をいただいたところでございます。

問 意見交換会や街づくり座談会での貴重な意見等を踏まえ、今後どのように進めて行くのか伺います。

答 施設の整備については、おおむね肯定的な意見をいただきました。一方で、整備後の運営を心配する声も聞かれましたので、まずは運営収支が黒字化することを本事業を進める上での第一条件とし、民間の活力を最大限に活用できるように検討してまいります。

問 山武消防管内の救急隊がゼロの状況が多々発生し、近隣消防本部からの応援をいただいている状況が、非常に多く発生していると聞いております。市民の皆様は安心・安全のため、救急隊員を含めた職員の負担軽減のため、近隣消防本部への多大なご迷惑をおかけしている状況を回避するために、早期の救急隊の増隊が必要と考えます。執行部のお考えはいかがでしょうか。

答 地域住民の安心・安全のために、山武消防管内における救急業務の充実強化に向けて取り組んでいただけてますよう山武郡市広域行政組合へ要望してまいります。

関連質問

土屋 忠和 議員



○出産・子育て家庭の支援について 新しく推進した出産・子育て応援交付金事業の実態をご教示下さい。

答 交付金の取組みとしては、妊娠や子育てが家庭が孤独感や不安感を感じることなく、安心して出産、子育てが出来る環境整備が喫緊の課題となっております。令和4年度の交付金の支給実績は、出産応援交付金は291名を対象に総額1,455万円を、子育て応援交付金は164名を対象に820万円を支給してまいりました。

この交付金により、出産家庭や子育ての一貫とした支援が「これからも継続して頂けるよう！」千葉県や国に対して呼びかけを要望致します。問 本市では、出産・子育ての世帯へ「おむつ購入の支援」は御座いますか、お答え下さい。

答 おむつ購入に対する経済的な支援につきましては、現在、本市では行っておりません。子育てをなさっているご家庭や本市を子育ての場所として選んで転入してもらえらる新婚家庭にも住み親しく、夢や希望を持たせられる施策を増やして欲しいと要望致します。

問 産後ケアと観光施設利用の支援策について質問いたします。

産後ケアは、育児の不安解消や母親の心身の疲労回復等、体調面が重要であります。本市は、群馬県中之条町と姉妹町として永きに交流を深めて参りました。その山紫水明の「四万温泉」を出産して間もない母親に湯治場として提供し、助産婦派遣のもと産後ケアをご家族で利用していただく、市独自の観光と結びつけた支援策についてご意見を伺います。

答 今後も先進自治体の情報収集に取り組みと共に、引き続き産後ケアの充実に努めたいと考えております。

関連質問

小倉 利昭 議員



問 防災対策について4点伺います。災害発生時の市民への情報伝達は、防災行政無線やホームページ、防災メール、ヤフー防災、エックス(旧ツイッター)等多方面にあるが、防災行政無線の聞こえにくい場合やスマホのない方にはどうするか。

答 屋内用個別受信機の貸与やテレビから防災情報を見ることができるとして、Lアラートの活用が効果的であり、広く周知に努めてまいります。

問 次に、停電の主な原因は、道路沿いの樹木の倒木であると思うが、前回の答弁で倒木の発生を未然に防ぐために市道沿いの私有地の伐採を行うとあったが、具体的にどこか。

答 伐採はまだ行っておりませんが、倒木時に電線に触れるおそれのある86か所を抽出しました。

また、平常時から事前伐採することとは、電線の断線を未然に防ぐ効果が期待できるので、広報紙やホームページで周知してまいります。

問 次に、断水について 飲料水の応急給水マニュアルとは何か、また、生活用水に使える防災井戸は何か所あり、どこにあるか。

答 応急給水マニュアルは、市民へ飲料水の供給活動を整理したもので、場所は市役所、運動広場、農村環境改善センターで、供給量は一人一日3リットルを目安にしています。

また、防災井戸は、中央公民館や小中学校など、市内26か所に設置しております。

個人質問

黒須 俊隆 議員



問 本庁舎の大型増改築が進められている中、4期に分けられた工事計画の1期工事は入札結果が議会で承認されなかった。入札結果の透明性・公正性への疑問が主な否決の理由だと思われるが、物価高を考慮しても不自然に高い価格に大きな問題があるとは考えます。財政的にままならない状況で対策があるのか。

答 市役所本庁舎の整備については、第1期工事として予定していた耐震構造等改修工事に係る本契約が締結に至らなかったことから、速やかに事業を再開し進捗させるためにも、全体を4期に分けて実施する従来の計画から、まずは第1期工事と第2期工事を併せて発注する方法に見直し、実施したいと考えております。

これは従来の整備方針が段階的に進めていくことを基本としていること、また、去る令和3年市議会第4回定例会において、エレベーター設置に関する陳情が採択された趣旨等を踏まえ、建物構造上の抜本的な改善と各種設備の早急な改修を内容とする第1期工事と、第2期工事として予定するエレベーターの設置や、老朽化が著しいトイレの改修などを併せて行うことにより、工事費用の抑制と工期の短縮が図られるものと判断したところであります。

問 私は令和2年以降、エレベーターについては一刻も早く工事を行うこと、また、エレベーター工事まで一括で行うことで事業費が削減、工期の短縮も図れることなど、本会議だけでも7回にわたって発言しております。中之条町のエレベーター改築の話、また、バリアフリー法の趣旨、千葉県内の3階以上の市役所でエレベーターがないのは本市だけ、

このような事例を取り上げて、市に対して、説得を試みてきたわけですが、これまで財政課長の答弁では、「エレベーター工事まで必要な工事ではない」と答弁し、エレベーター工事等2期工事までを一括で行うことをかたく否定してまいりました。今回の市の提案は、黒須が4年にわたって提案してきたとおりになったということ。この3年数か月間、市は一体何をしていたのか、大いに反省をしていただきたい。仮に一括して行われる1期工事、2期工事が順調に進んでいくとすれば、3期工事、4期工事はどのようなになりますか。前回の一般質問で提案したように、例えば図書室を民間施設に移動して、保健文化センターの空いたスペースに市役所を拡大し、増改築工事を大幅に延期する、あるいは見直すことなどは考えられないでしょうか。10数億円かけて改築しても、改築していない残りの大部分は古いまます。そうなるとうとう10年とか経つと、改築しなかつたところが古くなる。この古いまま決して新しくなるわけはありません。数十年単位で維持費とか増改築の費用を計算して、その上で再度進めることを提案します。

答 従前の第3期および第4期工事についても、工事費や工期的な観点から一括発注を今のところ予定しておりませんが、まずは今回見直し後の整備方針に基づき耐震構造、雨漏り、トイレの改修ならびにエレベーター設置を着実に実施するとともに、今後における工事の進捗状況を考慮しながら、慎重かつ的確な対応に努めてまいります。